

令和5年度 かほく市立高松小学校 学校評価最終報告(後期アンケート結果&改善策)

重点目標	具体的取組 ★かほく市教育重点項目と関わる項目	担当	現状	評価の観点 (評価者の観点)	実現状況の達成度判断基準	評定	3者アンケート結果			結果の考察	判定	今後の方針(改善)	学校運営協議会委員のご意見	
							評価者	A	A+B					
1 確かな学力と体力の育成	①学習規律 学習規律の徹底を図る。 ◇正しい姿勢、ペルソナの徹底 ◇ほめと励まし ◇規律の意味の指導	生徒指導 教務	学習ルールの徹底が必要である。	満足度指標	ほめと励ましを適切に用いて学習規律を指導しているか。(低学年)規律の意味を指導している。(高学年)	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師①	68.4 ↑	94.7	教師のA評価が前期より21%上昇した。	A	「学習の約束5か条」を意識し、掲示を活用して指導を継続する。随時できている児童を教師が認めたり褒めたりする。	・学習規律が徹底しているようでよい。常に学校全体が意識していることが必要。 ・学習ルールは徹底して厳しく行うべきである。児童に迎合する必要はないと思う。児童がその必要性を納得していることが大事である。 ・できている子を見逃さず褒めること、もう少しできそう等の励ましもあってもよい。
				努力指標	学習のきまりを守って学習していますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑨	67.2	95.8				
	②授業力・指導力 授業力・指導力の向上★ ◇児童が達成感をもつ授業の構築 ◇個別指導の充実 ◇主体的に学習に取り組み、深めるための授業づくり	研究 教務	教材研究を深め、児童が「わかる・できる」といった達成感のある授業を構築する必要がある。	満足度指標	学習における一人一人の様子を見取り、対処しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師②	50 ↑	100	教師のA評価が前期より13%上昇した。児童のA評価も若干上昇している。	A	個別最適と協働的な学びの一体化を図る手立てとして主に算教科で「学びたい」を取り入れた。児童自身が自ら学習方法や解決方法を選択できるようにしたところ、「できた」「わかった」と実感できるようになった児童が増えた。今後は他教科でも取り入れ、主体的に学ぶ姿を広げていく。	・児童のA評価が上昇したのはよいこと。 ・児童自らが選択する学習方法や解決方法は個に対応しているのでもよい。他教科でも同じように学ぶ姿を期待する。
				満足度指標	お子様は、学校の授業がわかりやすいと言っていますか。	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑤	43.2	90.1				
				満足度指標	授業は分かりやすいですか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童④	65.4	94.3				
	③学校研究 授業力・指導力の向上★ ◇全員が理解できるための工夫 ◇再実行させるための工夫 ◇思いを伝え合うことの重視(カリマネの柱)	研究 生徒指導	研究の重点について共通実践に努める必要がある。	努力指標	全員が理解できるための工夫や、児童の再思考につながる効果的な発問を工夫しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師③	22.2	94.4 ↑	教師の肯定的評価が前期より15%上昇した。児童の評価は同程度である。	A ↑	全員が理解できるための共通実践として取り組んだ「学びたい」で児童の主体的に学ぶ姿が見られた。今後も効果的な「学びたい」の在り方を探りながら実践していく。	・教師のA評価が低く、A+B評価が高いことは、指導に対して自己評価を厳しくし、研鑽している姿ととらえる。今後がんばってほしい。
				満足度指標	授業中や休み時間に自分の思いを伝えることができているか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑥	44.5	87				
	④ICTの活用 ICTの活用 ◇一人一台タブレットの効果的な活用	情報担当	情報活用能力の育成が必要である。	努力指標	一人一台のタブレット端末を授業で効果的に活用しようとしているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑥	72.2 ↑	94.4 ↑	児童の意識は前期と同程度だが、教師のA評価は46%、肯定的評価は10%上昇した。	A	引き続き職員研修の充実を目指し、効果的な実践の味を行っていく。また、児童にもタブレットでの学習方法を指導し、自主学習や授業で活用できるようにしていく。	・教師が活用すればするほど児童の役立っている感も上がると思う。 ・タブレットを使っての学習は今後もますます進められていくと思うが、教師、児童共に高評価なのは素晴らしい。
				満足度指標	タブレットを学習に役立っていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑤	78.9	97.8				
	⑤学びの土台 学びの土台作り ◇基礎基本の定着(話す聴く書く) ◇言語活動の充実(条件作文、読み取り新聞)	情報担当	基本的な学習内容の定着に差があり、その定着に努める必要がある。	努力指標	学びの土台としての共通実践に取り組んでいるか。(NEW)	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑦	66.7 ↑	100	教師のA評価は前期より20%上昇したが、児童の意識は6%下がった。	A	教師の意識と児童の意識に差が見られるため、一方的な指導にならないように、個別に見てやり、自分のことを自分の言葉で相手に伝えるように表現できることが大事。 ・児童の振り返りを生かし、どうしてできなかったのか理由を知ることが大切。例えば書くことが苦手な子には、書き方のパターンを示すなどしていくとよい。	・確かに一方的な指導だけでなく学習は浸透しない。形式的にならないように、個別に見てやり、自分のことを自分の言葉で相手に伝えるように表現できることが大事。
努力指標				「高松っ子の話し方・聴き方」ができていますか。(NEW)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑪	39.6 ↓	91.1					
⑥体力・運動能力 体力・運動能力の向上 ◇体力づくり1校1プラン ◇かけ足・なわとび運動 ◇全校外遊びタイム	体育担当 特活	児童の健康づくりのため、日常的な指導や保健・生活の授業の充実が必要である。外遊びも含めた1校1プラン等の全校的な取組を更に充実していく必要がある。	努力指標	1校1プランを意識した運動を授業等で取り組んでいるか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑤	30.8 ↑	100 ↑	教師のA評価、肯定的評価は前期より5~17%上昇した。児童の運動への取り組み意識は若干下がった。	A ↑	・体育委員会と連携して8の字とび大会を行うなど、日常から運動に取り組む意識の向上を図った。 ・タイピングの取り組みもあり、休み時間に体を動かす姿が若干減ったように感じる。体を動かすことの良さなどを日ごろから指導し、意識の向上に努めていく。	・休み時間は限られているので、タイピング、体育の両面を求めるなら曜日ごとにメニューを決めて強化するなどしないと難しい。	
			努力指標	体を動かす遊びや運動をしていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑭	67.7	89.1					
			努力指標	児童が楽しく運動できるよう活動を工夫して指導しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑨	30.8 ↑	100 ↑					
2 心の教育の推進	⑦挨拶・表現 挨拶・表現 ◇場に応じたコミュニケーション(家庭・地域・学校)	生徒指導	人間関係づくりの基本であるあいさつを学校内外で進めていく必要がある。	満足度指標	児童は場に応じた挨拶を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑩	21.1 ↑	94.4	3者の肯定的評価は同程度であるが、教師のA評価が7%上がった。	A	生活目標に盛り込み、よいあいさつをしている子を褒めたり、掲示したりすることで、あいさつへの意識を向上させていく。また、保護者にも通知し、あいさつの現状を知ってもらう。	・時々訪問した時に、挨拶のできる子もいるができない子もいる。 ・自分から挨拶できる子が多いうように思う。 ・ほめることはとてもよいし、次への意欲につながる。学校でも地域でも、まず大人が根気よく見本を見せることが必要。そしてできている子をほめる。
				満足度指標	お子様は、ご家庭や地域で、自分からあいさつをしていますか。	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑥	52.6	89.4				
	努力指標	学校や家庭や地域で「あいさつ」をしていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑫	79.6	97							
	⑧道徳教育 道徳教育の充実 ◇道徳授業の改善	道徳推進	道徳の実践力を身に付けるために道徳の授業を充実していく必要がある。	努力指標	考え、議論する道徳授業に向け、中心発問を吟味しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑫	18.8	93.8	前期とほぼ同じ結果である。	A	・週案に中心発問を位置づけることを職員で共通して取り組む。 ・授業後半の充実に向け、ICTを活用することで多様な考えに気付いたり、友達と話して自分の考えを広げたりできるようにしていく。 ・発問を意識して授業に取り組むことで、児童が考えを深められるようにしていく。通信を通して家庭や地域との連携を図る。	・教科指導も大切だが、人間性の育成に道徳も大切にしていこうという先生方の意識が継続していればよい。
⑨特別支援教育 特別支援教育の充実★ ◇共通理解と対応 ◇保護者・外部機関との連携	特支コ	特別支援教育の理解と児童のニーズに合った対応が必要である。	努力指標	支援を必要とする児童のニーズを共通理解し、全職員で対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑬	55.3 ↑	85.3 ↓	前期よりもA評価は12%上昇したが、肯定的評価は5%下がった。	B ↓	児童理解の会や校内研修を通して、支援が必要な児童への対応について共通理解を継続していくとともに、特別支援への理解も深めていく。また、専門相談員とも連携していく。	・「困った児童」ではなく、「困っている児童」であるという意識を忘れずに対応することが大事。 ・支援が必要な児童への支援方法を研修し、共通理解して対応しているのでもよい。	

3	いじめ、不登校・問題行動等の未然防止・早期対応	⑩ 生徒指導3機能	研究 生徒指導	児童一人一人のよさを引き出し、よりよい人間関係を構築し、自己肯定感を高める必要がある。	努力指標 児童の思いに寄り添う指導を心がけているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師④	68.4	100	保護者・教師のA評価は前期よりも上がった。特に保護者からの評価は5%上昇した。児童の自己肯定感のA評価はやや下がった。	A	児童一人一人の良さを認めるような肯定的な声かけを継続する。授業や普段の生活の姿から教師が児童の良さをを見つけ、児童の多面的なよさを本人に伝えていく。学年や異学年でもいいところを見つけ実施し、よい人間関係を構築し、自己肯定感を高められるようにする。	・保護者のA評価が上がったのは、学校と好ましい関係ができているように思う。 ・学校ではいると思う、自己肯定感を高められるようにしていると思う。 ・家庭で認められる言葉かけを受けることの影響が大きいと思う。
		⑪ いじめ対策	生徒指導	一人一人の児童を確実に把握し、更にきめ細かな支援が必要である。	努力指標 日頃から児童の変化を見取り適切に対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師⑬	47.4	100	教師のいじめ対策チームについてのA評価、肯定的評価が前期よりも若干下がった。児童のいじめに対するA評価が100%にならない。	A	なかよしチェックアンケートを実施し、児童と教師が話をし、実態把握やいじめの未然防止に努める。学校でのアンケート結果のお知らせやいじめ未然防止のための取組を生徒指導通信などで家庭に連絡することで、学校と家庭が連携して児童の様子を見守っているようにする。また、いじめは決してゆるされないという基本的な考えを全校に伝えていく。	・常にアンテナを高く、児童の変化に気を付ける。 ・対応はできる限り迅速に。
		⑫ 不登校対策	生徒指導 学年	児童の困り感に寄り添う姿勢をより一層心掛ける必要がある。	努力指標 日頃から友達関係に目を配り、トラブル等の未然防止、早期対応に努めているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師⑯	57.9 ↑	100	教師の肯定的評価が100%、A評価は前期よりも5~8%上がった。	A	児童理解の会で名前が出た児童やアンケートなどの結果を共有し、学校が楽しくない、暴力暴言を受けていると感じている児童に教師が進んで声かけを行い、組織的に対応していく。	・報告連絡を密にして、全員で取り組む。一部のみに偏らないように。
4	家庭・地域との連携	⑬ 学習習慣・生活習慣	教務 研究 生徒指導	児童の学習習慣を確立すると共に、生活習慣を整える必要がある。	成果指標 学年に応じた家庭学習の時間(学年×10分)が定着しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師⑱	31.3 ↑	75.1 ↓	児童の「計画を立てて学習」が前期よりも5%上がった。10時までに出ていない児童は前期よりも8%増え、児童の半数近くいる。ゲーム・ネット使用時間3時間以上の児童は11%(47人)いる。1時間未満と2時間未満と回答している児童と保護者の間で意識の差が大きい(15%乖離している)。	C	・学校でのアンケート結果を生徒指導通信に載せたり、家庭学習と併せてメディアコントロールに取り組んだりして、児童がメール・ネットを使用する時間を制限できるよう保護者と協力していく。 ・この課題は、根気強く指導していかないといけない。特に家庭でのルール作りをしっかりとしていかなければならないと思う。 ・メディア利用は魅力的なことが多すぎるので、指導は度を超えたりすることはない。常に言い聞かせて本人が納得するまでと納得するのが一番よい。指導は根気が必要。 ・学年によって「計画を立てて勉強している姿」の具体を示した方が親理解できるのではないかと。親の評価が下がっているのは、完璧な姿を望んでいるのではないかと。	
					満足度指標 お子様は、自分で計画を立てて勉強していますか。(市共通保④)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者 保護者④	17.0 ↓	60.7 ↓				
					成果指標 自分で計画を立てて勉強していますか。(市共通保④)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童 児童⑮	40.3	81.8 ↑				
		⑭ 生活習慣	教務 生徒指導	児童の生活習慣を整える必要がある。	成果指標 1日(平日)に平均してどのくらいメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。(市共通保⑤)	2時間未満の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童 児童⑬	27.2 ↓	73.9				
		⑮ 地域連携	教務 担任教頭	地域社会に関心をもち、地域についての理解や愛着を深める必要がある。	努力指標 地域の資源(人、自然、文化、歴史)を活用した活動や授業を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師⑳	41.2 ↓	100	前期よりも資源活用のA評価が9%下がったが、肯定的評価は100%、地域連携の肯定的評価が8%下がった。	A	・創立150周年記念式典で、どの学年も地域から学んだことや、地域に対して自分ができることを考え発表することができた。これを今年だけで終わらず、継続して地域学習を行い、積極的に発信していく教育課程に改善していく。 ・地域の見守り隊の方々を児童に紹介したり、日頃の感謝を伝えたりする活動を、2月の集会で行う。来年度は1学期に計画し、顔見知りになることで、児童からの積極的な挨拶の意識につなげていきたい。	・記念式典での児童の活動はどの学年もよかった。とりわけ6年生は最高学年らしく素晴らしい。 ・地域学習を教育課程に改善していけたら素敵だと思う。
		成果指標 挨拶、通学の安全等の取組において地域と連携できているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師⑱	35.3	88.2 ↓							

5	教職員の働き方改革	⑮業務改善	行事、会議、業務等の精選・改善 ◇効率化に向けた改善	教務 教頭	行事の精選、会議の効率化になお一層努める必要がある。	努力指標 それぞれの学年や、校務分掌において、精選・効率化に向けて提案を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師②	20	95	効率化と多忙化改善のA評価は前期より若干上がった。多忙化改善の肯定的評価が5%下がった。	A	・2学期は、運動会、創立150周年記念式典、マラソン大会、国民文化祭、学校訪問と立て続けに行事があり、多忙感がなくなることはなかった。しかし、そのような中で、肯定的割合がAであるのは、CNやSSSの積極的な業務支援によるものも大きい。今後も連携し、積極的に業務を担ってもらうようにする。	・今年度は行事がたくさんあり、教職員の方々にはお忙しい中準備していただき、ありがとうございます。 ・CNやSSSは、積極的に先生方に声掛けし、遠慮せずに行なってほしい。先生方も任せられるところはやってもらえばよい。
		⑯意識改革	意識改革 ◇日々の勤務における意識化	教務 教頭	教職員個々が意識的に取り組む必要がある。	成果指標 定時退校日（水曜日）、退校時刻の上限（19時30分）の取組を守っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師 教師④	47.4	89.5 ↓	45.0 ↑	75	A評価が前期より16%上がった。	C

<評価者> 1 保護者の評価(保護者→学校・児童・保護者) 2 児童の評価(児童→児童・教師) 3 教師の教育活動評価(教師→学校)

<判定基準> 児童・保護者・教師の3者評価の肯定的A+B評価の割合が、90%以上がA、80%以上がB、70%以上がC、70%未満がD (A+B評価が90%未満の場合及びA評価の推移を重視して、取組の改善を行う。)